独立行政法人水資源機構中部支社

水通信

2022.12.23　第189号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

水資源機構（旧水資源開発公団）は、令和４年（２０２２年）５月１日で設立から通算して６０年を迎えました。

今後も「安全で良質な水を安定して安くお届けする」経営理念のもと、事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願いします。

６０年記念動画を、こちらからご覧になれます。

豊川・木曽川水系30ver.jpg

豊川水系15ver.jpg

木曽川水系15ver.jpg

水資源機構ホームページでも、６０年記念事業についてお伝えしていきます。

https://www.water.go.jp/honsya/honsya

目　　次

※目次の事業所名等クリックすると、その事業所等の記事に移動します。
各事業所名をクリックすると目次に戻ります。

☆【巻頭言】
　　○　中部支社　事業部次長　森合　正人

☆【中部管内水源情報】

☆　インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

☆《新着情報》
　中部支社
　　○　地震・津波の防災訓練を行いました
　　○　理事長賞を受賞！！
　豊川用水
　　○　豊橋市農産物博覧会で豊川用水をＰＲしました
　　○　留学生が万場調整池を見学されました
　　○　大島ダム・ウォーク（第１１回）を開催しました
　　○　５３０（ゴミゼロ）のまち環境フェスタに出展しました
　木曽川水系連絡導水路
　　○「第２回長良川を美しくしよう運動」に参加しました
　　○　ハラスメント防止研修を実施しました
　愛知用水
　　○「ポンプ車・ポンプパッケージ操作訓練」を実施しました
　木曽川用水
　　○　水資源機構かんがい排水推進協議会職員研修会が開催されました
　　○　木曽川右岸用水土地改良区連合　各単区事務局長視察研修が開催されました
　　○　利水者等合同 パッケージポンプ操作訓練を実施しました
　岩屋ダム
　　○　流木配布を行いました
　　○　水源地保全地域の整備を行いました
　阿木川ダム
　　○　岐阜県獣医師会と協働による釣り糸・プラスチックごみ回収
　　○　阿木川ダム堤体登山を実施しました
　徳山ダム
　　○　名古屋市上下水道局「水源地探検隊」見学会を行いました
　　○　水質テロ事案対策　合同訓練を行いました
　長良川河口堰
　　○　津波防災訓練を実施しました
　味噌川ダム
　　○「奥木曽湖一周ウォーキング」が開催されました
　　○　第２３回にっしん市民まつりに出展！
　三重用水
　　○　刈草の無償配布を実施しました
　　○　ポンプ操作訓練を実施しました
　　○　小学校の社会科見学に協力しました

☆【編集後記】
　　○　担当課　中部支社事業部　水管理・防災課

巻頭言

【中部支社　事業部次長　森合　正人】

中部支社事業部次長の森合正人です。中部地域では、前任地の徳山ダム管理所、木曽川水系連絡導水路建設所のほか、平成３年頃に味噌川ダムにも在籍したことがあります。引き続きよろしくお願いします。

今年も残すところ１ヶ月未満となりました。今年の雨の降り方を振り返ると、１月から３月にかけて木曽川水系と豊川水系では平年比６５％、５８％と降雨が少なく、渇水傾向となりました。その後の降雨でいったん渇水は解消されたものの、６月の降水量は阿木川ダムで管理開始以降最小、牧尾ダム及び徳山ダムでは２位、味噌川ダムでは３位の小雨となり、また渇水の心配がありました。一方で９月に史上最強クラスと言われた大型の台風１４号、その後１５号と連続して到来、事前放流を牧尾ダム、大島ダム、宇連ダムで行っています。１０月は降雨が少なく、木曽川水系と豊川水系では１０月は平年比４９％、３５％となりましたが、１１月は平年比１３１％、１７６％と降雨に恵まれました。今のところ寒気の南下は弱く、年内は大きな降雪にならない見通しですが、どうなることでしょう。気象予測技術のさらなる進展が期待されます。

気象予測技術の進展に関するダムの取り組みでは、事前放流のほかにも「ハイブリットダム（仮称）」が国土交通省から発表されています。近年の気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化を踏まえた治水対策の更なる推進や、２０５０年のカーボンニュートラルなど脱炭素社会の実現に向けた取組みの加速化を図るため、ダムを活用して「治水機能の確保・向上」「カーボンニュートラル」「地域振興」の３つの政策目標の実現を図るものです。

気象予測技術の進展によるダム運用の高度化、最新の土木技術を活用したダム改造等により、治水機能の確保・向上とカーボンニュートラル（水力発電）を両立するダムの運用が可能となります。さらに、ダムで発電された電力を活用して企業誘致等を行うことにより、ダム所在地の地域振興にもつながります。

これまで、ダムの操作に係る規程や基準、様々な取り決めに沿って確実な運用に取り組んできました。気象予測技術の進展により、新しい視点でダムの有効活用、効果の発揮が可能となっているように感じます。水資源機構の管理するダムは数多くの関係者がおります。皆さまのご協力を仰ぎながら、施設のより効果的、効率的な運用・管理に努めて参ります。

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける１２月２２日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曽川水系の４ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の１２月降雨量は平年を下回る状況（平年比１７％～３０％）となっておりますが、４ダム合計の貯水率は９２％（平年比１０６％）と、平年を上回る貯水状況となっています。

なお、牧尾ダムでは３月末に向けて主として発電による貯水池運用により貯水量が計画的に低下していきます。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの１２月降雨量は、平年を下回る状況（平年比９％～１６％）となっておりますが、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は８４％（平年比１０６％）と平年を上回る貯水状況となっています。

中部管内各ダムにおける１２月の降雨及び利水貯水率（１２月２２日現在）単位：（％）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	17	27	30	22	9	16	9	70
利水貯水率 （平年比）	83.0 (113.0)	85.3 (95.8)	99.3 (103.4)	100 (104.9)	81.9 (111.2)	85.3 (94.0)	66.7 (89.1)	100 (100)

・中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社ＨＰ内の「水源情報」でご覧いただけます。

中部支社ＨＰ　https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html

「水源情報コーナー」

◆リアルタイム情報　https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html

◆中部管内の水源状況（平日更新）https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/

◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou04-1.html

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和３年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、愛知用水の水をご利用いただいている金山揚水土地改良区理事長の清水様にこれまでの経歴や業務内容などについてお話を伺いました。

■金山揚水之碑の前にて

〈Profile〉
清水　誠二　*Seiji Shimizu*
金山揚水土地改良区理事長（事務所：愛知県刈谷市一里山町伐払 121）

昭和 46 年　刈谷市役所　入所
平成 21 年　金山揚水土地改良区理事就任
平成 25 年　金山揚水土地改良区理事長就任

清水様は現在、金山揚水土地改良区の理事長をされておりますが、これまではどのような業務を経験されてきたのですか。

――始まりは刈谷市役所に入所で、総務部、福祉部、経済環境部、企画部、建設部、教育委員会、議会事務局と７部所に在籍していました。この多種多様な経験を活かしながら、金山揚水土地改良区の業務運営等に役立ており、大変ありがたく思っています。

金山揚水土地改良区は具体的にどのような業務を行われているのでしょうか。

――愛知用水から導水する、かんがい用水施設の維持管理が主な業務であります。金山揚水土地改良区の沿革についてですが、この地域は、元々森林を開拓して作り上げた土地でありました。よって保水能力は十分ある土地柄で、水さえあれば農業はできる地域であったわけです。しかしこの地域は、ため池が少なく農業を営むために必要な水が十分にないことから、農業にとっては毎年厳しい状況が続いていました。組合員は日頃より、近くを流れる逢妻川の水を利用できればと常に願っていました。そんな折、水源を逢妻川とし、石炭を使って蒸気機関を原動力として揚水ポンプを動かし、高さ１５．５ｍの高台の農地へ水を汲み上げる事業に、明治４４年６月より着手しました。突貫工事により翌年の明治４５年７月１７日に施設工事が完了し、盛大な式典とともに通水を開始しました。今年で通水１１０年となります。

圃場整備事業や水源の水質悪化に伴い県営逢妻地区かんがい排水事業により昭和４８年に水源を愛知用水に変更するなど様々な変遷を経て、現在４０４名の組合員、受益面積８

４．８ha、パイプラインの延長２５．７ｋｍで、用水路は（豊田市、刈谷市、知立市）合計１８０本、延長約１８．２ｋｍを維持管理しているものです。

このお仕事を志したきっかけについて教えて下さい。

――金山揚水土地改良区は、７つのブロックで構成されていて、ブロックごとに理事選任の会議を開いて、そこで推薦された人が理事として就任します。私は駒新ブロックで地区推薦された一人であり、就任当初は、強い志しや目的を持っていたわけではなかったのですが、相当の責任が必要であることは認識していました。

円滑な水の供給のためどのような点に気を配っているか教えてください。

――ＪＡ愛知中央の営農部が作成した「米づくりこよみ」であります。

あいちの米をもっと美味しくをキャッチフレーズに毎年組合員に配布されています。土作りから、苗作り、田植えの時期、中干し時期、カメムシ駆除の時期、収穫等美味しい米を作る作業時期が記載されたこよみであります。このこよみを参考にしながら組合員は、「コシヒカリ」、「あいちのかおり」を作っていますので、農水の必要な時期、また大量や一斉に必要な時期があり、金山揚水の配水係の３人と愛知用水と連携しながら田畑に農水が安定供給できるよう気を使っています。

■インタビュー中の清水理事長

■米づくりこよみ

どのような時にやりがいを感じますか。

――令和２年に策定した「利水調整規程」では、耕作者から配水実施計画について意見を聴取することと定められています。この規程に基づき、理事会の中で役員から意見を聴いていますが、「安定した農水供給であった」「米のできが良かった」「愛知用水との連携が良かった」との意見があると大変うれしくなります。

最後になりますが、休日にストレス解消のためにしていることがあれば教えてください。

――年に数日、富士山撮影に出かけます。現在は情報化の時代です。インターネットから満月の日、新月の日、三日月はいつか、月の出、月の入り時間、太陽の日の出、日没の時間を検索しながら、撮影場所の選択、地図の確認、正確性を必要とする月の角度、太陽の角度を計算して、富士山と月をテーマに剣ヶ峰の上に昇る満月、新月、三日月を撮りたいと計画している時間が至福の時です。しかし折角計画しても、山の天気だけは思うようになりません。

■富士山撮影の写真とともに

これが悩みの種です。富士山を観光写真として撮るのではなく目的を持って撮ろうとすると準備が必要です。この準備に相当時間を使い計画しますが、当日の天候に恵まれなければ撮影はうまくいきません。また日を改めて一からの出直しです。この繰り返しはもう何十年も続けていて、富士山作品は、コマ数では沢山あります。現在は満月と富士のコラボ作品に全力投球です。

本日は、お忙しいところインタビューにご協力いただきありがとうございました。

（編集後記）

清水理事長様には、これまでの多種多様な経験を活かし、日々のきめ細やかな農業用水の配水調整や耕作者からの意見に耳を傾けるなど金山揚水土地改良区の組合員のみなさま第一主義で愛知用水の水を届けていただいております。お仕事と富士山撮影を両立し、これからもよろしくお願いいたします。

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応えていただける方を引き続き募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

ブレイクタイム　四字熟語

【　精励恪勤（せいれいかっきん）　】

・全力で仕事や勉学に励むことや集中して物事にあたることの意味で、新年の抱負や座右の銘に人気の四字熟語

《新着情報》

中部支社

○　地震・津波の防災訓練を行いました

毎年１１月５日は「津波防災の日」であることから、中部支社では１１月９日（水）に地震・津波への知識の向上と防災意識の高揚を図るため、防災訓練を実施しました。

防災訓練には、職員４７名が参加して、大規模地震が発生した場合を想定した「シェイクアウト訓練」及び、避難場所と移動経路を確認するための「避難訓練」を実施しました。

また、中部支社管内事務所の津波防災の概要について再確認するため、「津波防災に関する勉強会」を開催しました。更に、安全に参集することを目的に非常参集訓練を実施しました。

■避難訓練の様子

防災訓練を通じて、職員一人ひとりが防災に対して高い意識を持ち、地震・津波に備えて参ります。

○　理事長賞を受賞！！

９月１２日（月）に中部支社で行われた令和４年度中部ブロック技術研究発表会での優秀賞受賞論文が、中部ブロック代表として選出され、１２月６日（火）に本社で行われた水資源機構技術研究発表会で発表する機会を与えられました。その結果中部ブロック代表５題の中から、中部支社事業部設備課の髙山さんの論文「外装型軸用漏水漏油防止装置の開発」が理事長賞を受賞しました。

今後も、中部支社及び本社の発表会を通じて職員の技術力の向上、開発、蓄積を図るとともに、自己啓発と研究意欲の喚起及び技術情報発信の場となるよう努めていきます。

■受賞した髙山さんと賞状

理事長賞３題と特別賞２題の受賞した論文は以下のとおりです。

【理事長賞】

★論文名：ダム操作中における危機的状況に対する備えの強化

所属、氏名：池田総合管理所　竹内　一朗

★論文名：印旛沼開発施設における予備排水の効果について

所属、氏名：千葉用水総合管理所　坂本　樹紀

★論文名：外装型軸用漏水漏油防止装置の開発

所属、氏名：中部支社事業部　髙山　大希

【特別賞】

★論文名：工場立会確認（ダム管理用制御処理設備）における遠隔臨場の取組み

所属、氏名：池田総合管理所　大西　章仁

★論文名：布目ダム管理ＣＩＭの活用報告

所属、氏名：木津川ダム総合管理所　合屋　祐国

豊川用水総合事業部

○　豊橋市農産物博覧会で豊川用水をＰＲしました

１０月１５日（土）・１６日（日）、豊橋まつりに合わせ、全国の有数の農業産出額を誇る農業のＰＲと地場農産物の消費拡大を図ることを目的として開催された「豊橋市農産物博覧会」（豊橋市農産物博覧会実行委員会主催）にて、愛知県・豊橋市・豊川総合用水土地改良区・水資源機構豊川用水総合事業部の職員が共働で豊川用水のＰＲを行いました。

■豊川用水ブースの様子（豊橋公園内）

会場となった豊橋公園（豊橋市）ではたくさんの農作物が販売されておりました。これら農作物の栽培に水は必要不可欠であり、東三河地方の農業を支えている“豊川用水”を管理する水資源機構は、今後も、関係機関等のご協力を賜りながら、水の安定供給に努めてまいります。

○　留学生が万場調整池を見学されました

１０月２８日（金）、アスジャ・インターナショナル（外務省の拠出金を受け平成１２年４月に設立された国際的な組織）にて受け入れている留学生が水資源機構豊川用水総合事業部豊橋支所の万場調整池（豊橋市）を見学されました。

当日は、留学生３９名と事務局２名の計４１名の方が来所し、会議室で水資源機構と豊川用水の概要説明後、万場調整池の見学を実施しました。

質問タイムでは、近藤寿一郎がインドネシアのジャワ島で見たオランダの農業水利事業をヒントに豊川用水の構想を抱いたことが話題となり、昔もこれからも国際交流がお互いの国の発展に繋がればとてもすばらしいことであると感じました。

■豊橋支所管理棟屋上での説明

■万場調整池をバックに記念写真

○　大島ダム・ウォーク（第１１回）を開催しました

１１月５日（土）、大島ダムの完成から１０周年を迎えたことを記念するイベントとして平成２２年度から開催してきた大島ダム・ウォークを、３年ぶりに開催しました。

このイベントは、豊川用水大島ダムの建設にご協力いただいた水源地域の皆様への感謝の意を込めるとともに、大島ダムをより理解していただくことをめざして実施しております。

爽やかな秋晴れのなか、開式のセレモニーで地元新城市の下江市長、豊川総合用水土地改良区の小久保理事長よりご挨拶を頂戴した後、過去最多の参加者となる約４５０名の方が、一斉に大島ダムを目指してウォーキングを開始しました。

セレモニー会場である新城市立鳳来東小学校をスタートし、折返し地点の大島ダムを経由し三河川合駅をゴールとした約６．５ｋｍのコースを、参加者が怪我もなく楽しそうに歩いていた姿がとても印象的でした。

■鳳来東小学校のセレモニーの様子

■大島ダム堤体にて生演奏

○　５３０（ゴミゼロ）のまち環境フェスタに出展しました

１１月１２日（土）、のんほいパーク（豊橋総合動植物公園（豊橋市））で開催された“５３０のまち環境フェスタ”（５３０環境協議会主催）にて豊川用水のＰＲを実施しました。

このイベントは、多くの方に体験やイベントを通じて、廃棄物の削減のみならず、地球温暖化、プラスチックゴミ問題などについて広く周知、普及啓発することで、ライフスタイルや事業活動を環境と調和したものに変化させ、持続可能な社会づくりへ繋げることを目的とされております。

■大盛況の水資源機構ブース

水資源機構豊川用水総合事業部においても、水力発電の取組やゴミひろい活動報告に併せて水資源機構と豊川用水のＰＲを実施しました。

当日は晴天にもめぐまれ、また、動植物公園で実施されたこともありたくさんの方が来場され、水資源機構ブースでも想定以上のＰＲ活動ができました。

木曽川水系連絡導水路建設所

○「第２回長良川を美しくしよう運動」に参加しました

１０月２３日（日）、木曽川水系連絡導水路建設所は長良川の景観を守るための取り組みの一環として岐阜市長良川河畔にて行われた岐阜新聞社、岐阜放送が提唱する「第２回長良川を美しくしよう運動」に参加しました。

当日は、曇り空の中で始まりましたが次第に天候にも恵まれ、他団体の方とともに河畔のゴミ収集を通じて長良川の自然環境の保全活動を行いました。長良川河畔のゴミは思ったより少なく、河川を利用されている方々のマナーの向上を肌で感じました。

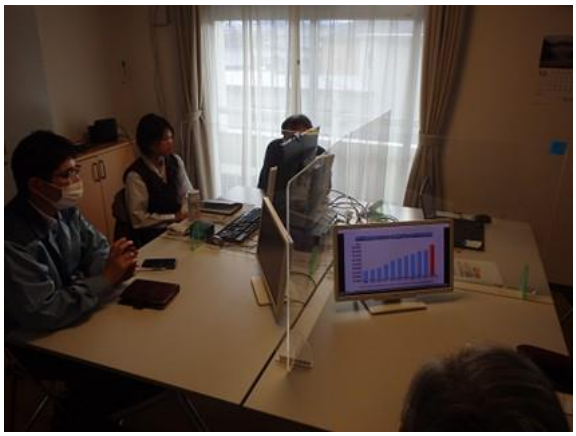
■長良川河畔でゴミを収集中

■ゴミ収集を終えて

○　ハラスメント防止研修を実施しました

１２月１日（木）、職員等のコンプライアンス意識の向上等を推進する一環として、ハラスメント防止研修を実施しました。今回はパワーハラスメントを題材にしたビデオ教材を視聴し、各人がどのように対処すべきか等の意見を述べました。

研修では「職場の同僚の意見を尊重することがまず大切」「指導と叱責の境目をどう認識するか」といった様々な意見が出され、参加者はハラスメントのない職場作りについての重要性を再認識しました。



■研修の様子

愛知用水総合管理所

○「ポンプ車・ポンプパッケージ操作訓練」を実施しました

水資源機構施設は、水のライフラインの基幹を担っていることから、地震後における通水機能の確保のほか、風水害や施設障害、渇水時の対策等を目的として、送水・排水が可能なポンプ車を各地に配備しています。愛知用水総合管理所には６０㎥／ｍｉｎのポンプを搭載した大型自動車と、５㎥／ｍｉｎの水中モーターポンプ×２台、２５ｍホース×４本、水中ポンプと電源を制御する操作盤、電源の発動発電機（４５ｋＶＡ）とその他付属品をセットにした「ポンプパッケージ」が配備されています。

急な出動に備え、ポンプ車等の能力や性能を職員が理解し、操作技術を習得しておく必要があることから、機構では職員向けのポンプ車等の設営訓練を適宜行っています。愛知用水総合管理所では、ポンプ車及びポンプパッケージの設置手順や操作方法の習得を目的として、１１月２５日（金）に職員１１名が参加し操作訓練を実施しました。機構では、このような訓練を継続的に行い、職員の危機対応能力の向上に日々努めるとともに、地域社会に貢献できる体制づくりを推進していきます。

■訓練の説明

■設置、操作訓練の様子

■放水状況確認の様子

木曽川用水総合管理所

○　水資源機構かんがい排水推進協議会職員研修会が開催されました

１０月２０日（木）と２１日（金）の二日間、『水資源機構かんがい排水推進協議会職員研修会』が３年ぶりに開催されました。２年間は、新型コロナ感染症防止のため中止でしたが、今年度は開催され、木曽川用水総合管理所管内が研修の場となりました。一日目の現地研修後には、意見交換会も開催され、全国他地区の会員との交流も深まる有意義な研修となりました。

研修会の初日は、始めに木曽川用水総合管理所屋上から「木曽川大堰」を視察するなど施設管理事業の説明をしました。次に、今年度新規事業となる「木曽川用水濃尾第二施設改築事業」の改修対象施設「葛木揚水機場」にて、当改築事業の概要、改修工事の内容を説明しました。二日目は、長良川の治水と利水を目的とした「長良川河口堰」を視察し、続いて濃尾平野に広がる海抜ゼロメートル地帯における地盤沈下地域象徴の「抜け井戸（井戸の抜け上がり、鉄のタケノコ）」を視察し、最後に尾張西部地域の排水の要となる「日光川河口排水機場」を視察しました。

研修会は、参加者始め関係者皆さんの協力のもと、二日間とも天気が良く、しっかり現地視察等ができ、無事に終えることができました。

■木曽川用水総合管理所の屋上にて

■葛木揚水機場

○　木曽川右岸用水土地改良区連合　各単区事務局長視察研修が開催されました

１１月１日（火）、『木曽川右岸用水土地改良区連合　各単区事務局長視察研修』が４年ぶりに開催されました。本研修は２年に一度開催されていますが、令和２年は新型コロナ感染症拡大防止のため開催が見送られ、今年の開催が４年ぶりとなりました。

現地研修の視察箇所について、主に中部管内における水資源機構の施設等を視察研修の対象として活用いただいており、本年は三重用水が研修の場となりました。

当日の研修について、三重用水管理所にて事業概要及び操作室での日々の水管理・施設管理等の説明、また、現地においては、中里ダム（ダム及び小水力発電施設）、牧田川取水工など、三重用水の主要施設について現地を視察すると共に、さらに、三重用水の受益地域内に存在する、いなべ市の「片樋マンボ（いなべ市指定史跡）」の施設を見学し、当該地域における水田用水の確保のために設けられた特徴的な施設を見学しました。

視察に参加された方々から、受益地域の特長、また、三重用水施設に関する現地職員からの丁寧な説明等により、地域及び事業に対する理解が深まったとの好評価をいただいており、大変有意義な視察研修となりました。

■三重用水 操作室

■小水力発電施設（中里ダム）

○　利水者等合同　パッケージポンプ操作訓練を実施しました

１１月１１日（金）、水資源機構の備蓄資機材として木曽川用水に配置する可搬式ポンプの操作訓練を開催しました。

本訓練は職員の操作技能の向上を図るとともに、防災業務に係わる地域連携を強化することを目的としており、中部管内５事務所、関係利水者及び近隣市町の防災部局と合同で総勢３３名により実施しました。

現地では、発動発電機、操作盤、ポンプの接続及び操作方法の説明を行った後、参加者全員が実働に参加できるよう４班に分けてポンプ稼働までの一連の実技を習得していただきました。

実技では一つ一つの工程での質問等に対し丁寧に意見交換を行ったことで、普段見逃しがちな作業手順等もより正確に理解していただけたと思います。また、関係者と一緒に汗を流し作業を行うことで、地域連携及びリスクコミニュケーションに対する意識向上が図れたと思いますので、来年度以降も引き続き本訓練を実施していきたいと考えております。

■概要説明の様子

■可搬式ポンプ接続等訓練の様子

小林一茶

ブレイクタイム　俳句

【　うまさうな　雪がふうはり　ふわりかな　】小林一茶

・空を見上げると、美味しそうな牡丹雪が、ふうわりふわりと降ってくることだ。（現代語訳）

岩屋ダム管理所

○　流木配布を行いました

１０月３０日（日）、岩屋ダム上流約４㎞地点の柏谷で毎年恒例の流木の無料配布を行いました。

この活動は、大雨や台風によりダム湖に流れ込んだ流木を長さ３０㎝程度にカットし、事前に申込みをされた方に配布しているものです。お客様たちは薪ストーブ等の燃料として有効活用される一方、管理所としては廃棄費用の削減につながる、大変有意義な活動になりました。

■配布用の流木

○　水源地保全地域の整備を行いました

５月２４日の名古屋市のアメンボクラブによる水源地保全活動にて実施された植樹活動について、当該地域の環境整備として１２月８日（木）に除草作業を行いました。

植樹を覆うように生えたススキなど背の高い雑草を刈り取ることで、必要な日光を十分に確保できるようにしました。樹木がどんどん大きくなっていくことが今から楽しみです。

■作業中の様子

■作業後の植樹した地域

阿木川ダム管理所

○　岐阜県獣医師会と協働による釣り糸・プラスチックごみ回収

　１０月２０日（木）、岐阜県獣医師会東濃支部が主催する阿木川ダム湖岸での釣り糸・プラスチックごみ回収に、岐阜県、恵那市、中津川市、恵那漁協、地元自治会、阿木川ダム管理所を含め、総勢３６名が参加して行われました。このゴミ回収は、ダム湖岸での恒例行事ですが、新型コロナウイルスの感染拡大のため３年ぶりの開催でした。
　当日は秋晴れに恵まれ、２箇所に分かれてごみを回収し、分別・搬出しました。回収終了後、全員で記念撮影を行い、ダムの環境保全を祈念しました。

■湖岸でのごみ回収の様子

■回収したごみとともに

○　阿木川ダム堤体登山を実施しました

　１１月３日（木）、ダム完成前の平成元年から続く「メモリアルマーチ」が今年も開催され、秋晴れの下、約２５０名が恵那市役所～明知線岩村駅の約１３ｋｍを歩きました。
　メモリアルマーチの最難関が阿木川ダムの堤体登山で、参加者は堤体法面上にテープで表示された登山コースをそれぞれのペースで登りました。このイベントの主催者は市民団体ですが、阿木川ダム管理所は後援者として、全員体制で登山コース表示、案内看板及びダム説明パネルの設置、当日の安全管理、登山証明書・ダムカード・缶バッチ等の配布を行いました。

■堤体登山の様子

■登山を終え堤頂部で一休み

徳山ダム管理所

○　名古屋市上下水道局「水源地探検隊」見学会を行いました

一昨年は中止、昨年はオンラインを活用した自宅開催であった名古屋市上下水道局「水源地探検隊」が１０月２２日（土）に３年ぶりに現地開催されました。

徳山ダムを実際に見てもらい、ダムの役割や設備の説明を行い、下流域の皆さまの暮らしを洪水から守り、大切な水を安定的に補給して、暮らしを支える大切な存在であることを実感いただきました。ダム見学のほかに、「生命の水と森の活動センター」にて、自然学習教室や木工体験、ダムの材料を掘削した山へ植樹するための苗木づくりなども行っていただきました。

■衛星写真を使っての説明風景

■建設時の重機タイヤ前での説明風景

○　水質テロ事案対策　合同訓練を行いました

１１月１４日（月）徳山ダムでは、不審者が毒物を貯水池に撒いたことを想定した水質テロ事案対応訓練を警察署、消防署、徳山ダム管理所合同で実施しました。

ダム管理所職員から通報を受けた警察官が、逃走する不審者を確保し、身体捜検、事情聴取、毒物の回収と搬送をした後、消防署員による貯水池の中和作業を行い、迅速かつ密接な連携対応を相互に確認しました。

■訓練中の対策本部の様子

■訓練の様子　犯人確保　　オイルフェンス内の不審物回収　　中和剤散布

長良川河口堰管理所

○　津波防災訓練を実施しました

１１月１５日（火）に長良川河口堰管理所において、津波防災訓練を実施しました。はじめに、内閣府発表のデータを元に南海トラフ地震・津波の想定について再確認した上で、長良川河口堰管理所での津波対応訓練を行いました。

津波対応訓練では、地震発生から津波到達までの時間的制約がある中で、津波情報を速やかに確認し、操作員へ指示を行う流れについて、実際の津波を想定しながらチェックシートを用いて確認しました。

また、津波や高潮による被災により、宿舎から管理所までの車での参集ができない場合を想定して、防災無線の動作確認と安全な道路を徒歩で参集することができるようルートの確認を行いました。

長良川河口堰管理所では、いつ何時発生するかわからない災害に対して、的確かつ迅速に対応できるよう、今後も定期的な訓練を継続していきます。

■津波対応訓練の様子

■防災無線動作確認の様子

味噌川ダム管理所

○「奥木曽湖一周ウォーキング」が開催されました

　１０月２９日（土）、ダム湖（奥木曽湖）周回道路で味噌川ダム防災資料館が主催する「奥木曽湖一周ウォーキング」が開催されました。
　コースは、のんびりコース９．２kmと健脚コース１１．４kmに分かれ１５名が参加しました。
　のどかな青空の下、参加した皆さんは張り切ってウォーキングに臨まれ、色鮮やかに煌めく紅葉に感動しながら楽しまれていました。

■スタート前の説明

■紅葉のウォーキング

○　第２３回にっしん市民まつりに出展！

　１１月２０日（日）、愛知県日進市にて「第２３回にっしん市民まつり」が開催されました。
　味噌川ダム管理所もブースを設けていただき、ダムのＰＲとして味噌川ダムクイズや奥木曽湖から回収した流木の無料配布等を行い、多くの日進市民の方に水資源機構や味噌川ダムの役割等を知っていただく良い機会となりました。

■展示ブース内の様子

■流木配布の様子

三重用水管理所

○　刈草の無償配布を実施しました

三重用水管理所では、行政当局による確認を得た上で、毎年、ダムを管理する上で発生する刈草を無償配布しています。刈草は畑のマルチングや、堆肥の原料等にご活用いただいております。

今年度の申込みは終了しましたが、毎年秋頃に三重用水管理所のホームページで募集しておりますので、ご希望の方はぜひお申し込みください。

■刈草ロール作成の様子

■配布する刈草ロール

○　ポンプ操作訓練を実施しました

１１月２５日（金）に、災害支援等で必要になるポンプ車の操作・設営の訓練を実施しました。

訓練では、今年発生した愛知県の明治用水における漏水事故で、三重用水管理所が管理しているパッケージポンプを持ち込むなど支援を行ったことを踏まえ、パッケージポンプの設置と運転について実施しました。

今後も、確実に操作できるように訓練を続けていきます。

■パッケージポンプの積込み

○　小学校の社会科見学に協力しました

１１月２２日（火）に菰野町立千種小学校の４年生４６名が社会科見学で三重用水管理所を訪れました。

上水道について勉強中とのことで、資料を用いて三重用水事業が原水を供給することで、菰野町・四日市市へ上水道供給に果たす役割を説明しました。

児童たちは、普段使っている水がどこから流れてきて、どこで水を貯めて、浄水場を経て、家庭、学校、各地域へ運ばれているかの説明に興味深く聞き入っていました。

■三重用水の概要説明

ブレイクタイム　ことわざ

【　案ずるより　産むが易し　】

・事前に心配していたことも実際にやってみると案外たやすく実行できるものだということ。

【　言うはやすし　行うは難し　】

・口で言うのは簡単だが、それを実行するとなると難しいという意味。

編集後記

【担当課：中部支社事業部　水管理・防災課】

中東で初のワールドカップが開催され、連日の熱戦に寝不足の方も多かったのではないでしょうか。残念ながら日本は決勝トーナメント１回戦でクロアチアに敗れてしまいましたが、ロシアによるウクライナ侵攻や原油価格の上昇による物価高が続く日本に、大きな経済効果と一昨年のラグビーワールドカップ同様、日本が一体になる興奮と明るい話題をもたらしてくれたようです。

さて、ワールドカップの開催国カタールは一年を通じて暖かく乾燥した気候で、夏場の最高気温が４０度を超えることから、史上初めて１１月開幕となりましたが、それでも最高気温は３２度と８月の東京都心並みだったようです。

産油国でもあるカタールは比較的安い価格で発電できるため、市内の商業施設は強力な冷房設備が整っており年中快適に過ごしやすいそうですが、今大会のスタジアムも防寒対策が必要なほど冷やされており、熱中症対策のためとは言え、大量の電力を消費して空調を効かせすぎるのは、気候変動対策に逆行するのではないかという指摘もされているようです。

近年、世界各国では季節を問わず地球温暖化による異常気象が発生しており、日本でも極端な大雨が多発する等、災害発生の頻度が高まっています。

水管理・防災課は、名前のとおり、洪水対応を始めとした防災業務と日々の水の安定供給のための水管理業務を中心に行っており、今年の洪水期・かんがい期は、幸いにも大きな災害等の発生もなく、利水者様や関係機関の皆様のご協力により無事乗り切ることができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今年もあと数日となりましたが、今後は年度末に向けて、今年度のとりまとめ作業や次年度に向けた準備を的確に進め、より効率的で安定した管理のための改善を行っていくとともに、日本サッカー代表を見習い、職員の能力向上と次代を担う若手の育成にも努めてまいります。

最後になりますが、皆様にとって令和５年がよい年でありますように。

■■■